

妊娠初期 乳がん検診

(妊娠16週までに受けましょう)

乳腺超音波検査 実施日：週1回

(実施日・実施時間は受付にお問合せください)

¥4,400 (一般)

¥3,300 (当院分娩の方)

赤ちゃんは、お腹の中にいる時だけでなく、
生まれた後も長い間お母さんを必要とします
赤ちゃんの為にもお母さんの健康はとても大切です
安心して出産・育児が出来るよう、妊娠初期に
乳がん検診を受けましょう



※妊娠中期・後期や授乳中は乳腺が発達するため
小さな乳がんは発見しにくくなります

妊娠初期乳がん検診(乳腺超音波検査)Q&A

Q1. どんな検査をするの？

- A. 超音波検査は胎内の赤ちゃんの状態を診断するために使用されるものと同じで、ジェルを胸に塗って、プローブと呼ばれる機械を当てて乳房内部を映します。胎児に影響はありません。

Q2. 妊娠初期に乳がん検診って必要なの？

- A. 近年、妊娠・授乳期に乳がんにかかっている方が増えています。また、体内のホルモンが変化することにより、乳がんの進行が早くなる可能性が指摘されています。早期発見・早期治療が大切です。
- A. 妊娠後期・授乳期になると乳腺が発達し、超音波画像でしこりの良性・悪性を判断するのが難しくなります。妊娠初期で検査をしておくことにより、授乳期にしこりが見つかったとしても、良性か悪性かの判断がしやすくなります。

Q3. 妊娠期の乳がんは進行が早い？

- A. 妊娠中は乳腺が発達するため自分でしこり等に気が付くのが難しくなり、乳がん発見時にはしこりが大きく、進行した状態で見つかる事も多いため、治療が難しいことがあります。しかし、早期発見し早期治療を行う事によって、妊娠と関連のない乳がんと同等の治療効果が報告されています。

Q4. 妊娠中に乳がんの治療は出来るの？

- A. 現在では、産婦人科と乳腺外科が連携し、最適な治療法を選び、胎内で赤ちゃんを育てながら乳がんの治療を行う事が出来ます。